

◎ランデル錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 エホニジピン塩酸塩 efonidipine hydrochloride 【分類】 Ca拮抗薬

【単位】 ▼10mg・◎20mg・▼40mg錠

【常用量】 20～40mg/日

【用法】 分1～2

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【PD】 排液が混濁することがあるので腹膜炎等との鑑別に留意 (1)

【保存期CKD患者への投与方法】 腎機能障害のPKへの影響なし (1)

【特徴】 持続型Ca拮抗剤。L型だけでなくT型Caチャンネルブロック作用があるとされる。腎実質性高血圧症に対して安定した降圧効果を示す。

【主な副作用・毒性】 肝障害、BUN・血清クレアチニン・尿蛋白の上昇、好酸球増多、ヘモグロビン減少、発疹、顔面潮紅、動悸、胸痛、頭痛、めまい、消化器症状、全身倦怠感、頻尿、浮腫、血清カリウム低下など

【吸収】 吸収率62% [ラット] (1)

【tmax】 1.4～2.2hr (1)

【代謝】 N-benzyl-N-phenylaminoethyl 側鎖部位が代謝を受けたあとにジヒドロピリジン環が酸化反応を受ける (1) N-脱ベンジル体、N-脱フェニル体、アルコール体、アルコールピリジン体は活性を有する (1) 主にCYP3A4で代謝、一部2C19が関与 (1)

【排泄】 尿中に未変化体は排泄されない (1) 胆汁を介して糞中排泄 (1) 尿中回収率は1.6%ですべて代謝物のみ (1)

【t1/2】 約2hr (1)

【蛋白結合率】 99.4～99.8% (1)

【Vd】 おそらく大きい (5) 資料なし (1)

【MW】 714.18

【透析性】 除去されない (5) 資料なし (1)

【TDMのポイント】 TDMの対象にならない (5) 最小有効血中濃度0.42ng/mL (1) 【O/W係数】 1000以上 [1-オクタノール/buffer, pH6.5] (1) 【pKa】 3.27 (1)

【相互作用】 GFJとの併用でCmaxが1.5倍、AUCが1.7倍に上昇 (1)

【更新日】 20200421

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。